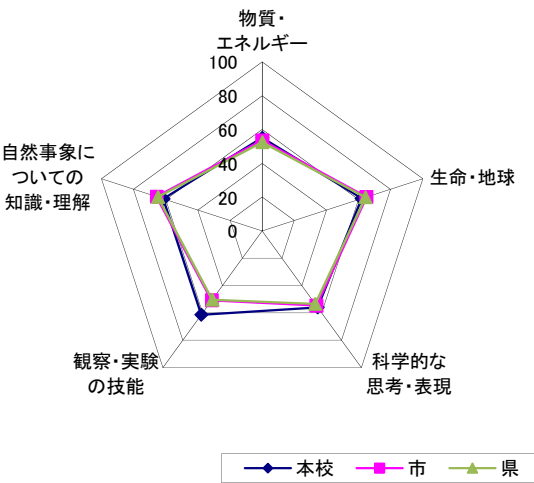


宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.1	53.7	52.5
	生命・地球	61.9	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	55.9	54.7	53.4
	観察・実験の技能	61.3	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	61.5	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県と比べて2.6ポイント高い。 ○かん電池2こを並列つなぎにした時、かん電池1個と同じ速さでモーターが回る問題や光電池の性質を選ぶ問題は県と比べて10ポイント以上高い。本時のねらいを焦点化し、実験セットを使って、個人で実験させた成果と考えられる。 ●空気や水、金属のあたためり方の問題に課題が見られる。 ●実験の結果から理由を考える問題に課題が見られる。	・今後も、授業のねらいをはっきり示した上で、個人実験を行わせていく。その際、本時の振り返り活動を重視し、個々の理解状況を把握し個別指導する等、一人一人に応じた指導を行っていく。 ・理由を考えることをねらいにした授業を工夫し、児童に協力して考えさせることで、説明する力を付けていく。 ・フォローアップシート、とちぎ子どもの基礎基本問題事例集等を授業や宿題で利用したり、学校生活の中で起こる事象を折にふれて取り上げることで、もののあたためり方についての理解を高めていく。
生命・地球	平均正答率は、県と比べて2.4ポイント低い。 ○人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明することや星座早見の使い方が分かること、方位磁針を正しく操作することがよくできている。児童一人一人に学校にある方位磁針や星座早見を使わせたことや骨格の模型を使って説明させたことの成果と考えられる。 ●夏には見られない動物を選ぶことや星座や星の位置と並び方を理解すること、温度計の正しい使い方が分かることに課題が見られる。	・今後も、学校にある備品を効果的に活用して、その使い方や現象に対する理由を考えさせることで実験・観察の技能や科学的思考・表現の力を付けていく。 ・学校の周りに在る自然や身近にある用具について、授業以外の場でも話題に出し、季節と生き物の様子の変化や温度計の使い方を習得させる。 ・星座や星に関するDVDやデジタル教科書等を活用し、時間の経過と星の位置や星座の並び方を理解できるようにする。